



金沢 S D G s

1. 木の文化都市・金沢



日本でははるか昔から「木」と暮らしを共にしてきました。
金沢の約6割は森林です。
地元の木材を活用して、自然と人が「共存」できる
都市を目指しています。



- ◆一軒の木造建築を建築するには、約200～300の木が必要
かつての日本家屋は木造だったため、定期的に木の伐採、植林のサイクルが行われていました
- ◆森林を定期的に手入れすることで、健康で丈夫な木が育ち、水や空気が浄化（きれいに
すること）され、さまざまな災害から私たちを守ってくれています



現在

- ・木造建築の減少により、森林が荒れ果てる
- ・木材の値段が安くなり、産業(林業)が衰える
- ・健康で丈夫に育たなくなること、空気の浄化が鈍化、土壌がゆるみ災害発生の原因に
(豪雨⇒地盤が緩み土砂崩れなど)



金沢市の
取り組み

- ・公共建築物や一般建築物において、地元産木材の利用を促進する法整備
- ・地元産材を使った商品の開発・使用の推奨
- ・「木育」促進：遊びを通して木と触れ合うことで、環境に関心をもたせます

13 気候変動に
具体的な対策を



11 住み続けられる
まちづくりを



2. 金澤町屋



昭和25年以前に建てられた木造住宅の総称。町家、武士系住宅、足輕住宅、近代和風住宅など、多種多様な歴史的建築が市民によって住み継がれており、現在金沢市内には約6,000軒あります。



個人宅とはいえ、勝手に木造建築の解体はできません！！

木造建築の保全活用のため、解体前に事前届け出を義務付ける“特定金澤町家”制度をつくっています



- ◆町家を解体しようとする場合、90日前までに届け出る制度を設け、保全活用のための支援策を提案
- ◆歴史的文化資産であり、次世代に継承していく重要性を市民に啓蒙（教え広める）
- ◆活用度の低い町家は防犯、防災、衛生面から地域にとって迷惑な存在となるため、利用の促進を図る
町家を利用したい人と町家のオーナーをマッチングさせる仕組み作り
- ◆保全・活用に必要な「伝統工法」に関わる職人技の継承や専門知識を有する人材を育成



歩きながらみつけてみよう！

11 住み続けられる
まちづくりを



3. シェアサイクルまちなのり

どこのサイクルポート(専用駐輪場)でも借りられて、
どこでも返せる公共シェアサイクルサービス。



◆金沢市内に「75」の専用駐車場あり
主要観光箇所間の移動はもちろん、市民の足としても利用
「旅行者」も「市民」もハッピー

◆ 金沢は坂の町 => 500台全て電動自転車

◆自家用車の利用を控え、公共交通機関やまちなのりを利用



- 二酸化炭素排出がなく、地球にやさしい
- エネルギー消費型 => 環境を重視したまちへ
- “シェア”という考え方や大切にものを使う=> 資源の効率的な利用

11 住み続けられる
まちづくりを



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を



4. 置き傘

自由に使えて、自由に返せる置き傘。



◆「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるほど雨の多い金沢では、急な雨に対応できるよう市内21箇所で、自由に借りられて、自由に返せる傘置きを設置

◆市内2か所にある観光案内所では、傘の他、「長靴」「車いす」も貸し出しあり（無料）

◆旅行者だけでなく、市民も利用



●“シェア”という考え方や大切にものを使う => 資源の効率的な利用

●訪れる人への“おもてなし”の一つ



11 住み続けられる
まちづくりを



5. ボランティアガイド

金沢市内をいろいろ案内してくれるボランティアガイド「まいどさん」のほか、金沢城・兼六園を案内する「城と庭のボランティア」や、外国語対応の通訳ボランティアガイドなど、金沢には様々なボランティアガイドが日々活躍しています。



～歴史や文化の語り部～

◆現在、約500名のボランティアガイド「まいどさん」、「城と庭のボランティアガイド」が在籍

◆年齢は20代～90代と幅広く活躍中！

◆年中無休

◆人が好き、歴史が好き、伝統文化が好き、金沢が好き、という多種多様な方々が自身のライフステージに合わせて柔軟に学び直し、感じたことを、旅行者へ案内することで、健康の促進、社会貢献に、生きがいの醸成につながっています。

ボランティアガイドさんにいろいろきいてみましょう！

3 すべての人に
健康と福祉を



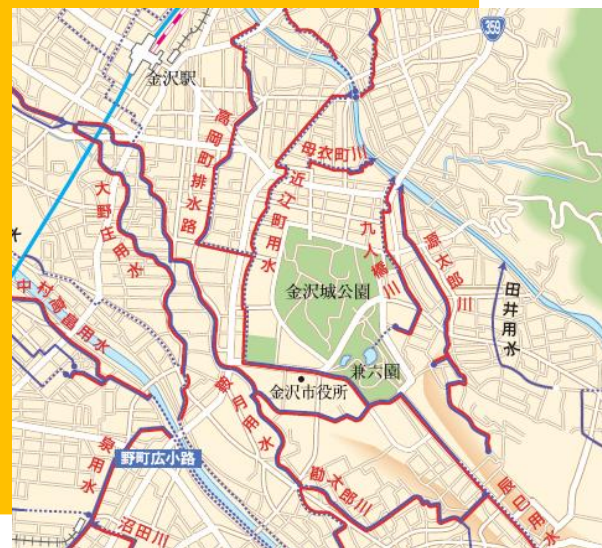
8 働きがいも
経済成長も



6. 用水

市内を縦横無尽に流れる55本の用水。景観に個性と潤いを与えるだけでなく、金沢の文化、歴史、日常生活の担い手です。

- ◆藩祖前田利家が金沢城を築城する際の、運搬ルートとして利用
- ◆元々は、金沢城を防御するための堀（総構）の一部としてつくられた
- ◆町の中を水が流れる景観に潤いを与えてる
また、兼六園や他庭園を彩る池、滝として美しい景観をつくりだす
- ◆「大雨の排水用」「雪捨て場」「防火用水」として利用
- ◆人口約50万人の都市の中心部で、夏にほたる観賞ができます
※ほたるは、水がきれいなところを好みます



15 陸の豊かさも
守ろう



11 住み続けられる
まちづくりを



一時期は、用水を暗渠（蓋をして地下化）して、車の往来を優先していました。
1996年の条例制定で、開渠（川の見える化）し、再び水が流れる街になりました。

7. 兼六園でSDGs

土地の国宝「特別名勝」に指定されている兼六園の希少な景観・自然を守り、後世に継承します。

①後継木の育成

園内には約8,200本の樹木があり、そのうち

19本 => 重要な「特別名木」

55本 => 「名木」

354本 => 樹齢100年以上の「古木」

希少な遺伝子を持つ樹木の消滅を防ぐため、万が一に備え、別の場所で名木の遺伝子を持つ跡継ぎを育てている

②雪吊り

毎年11月に入ると、雪害(雪の重さで枝や気が折れるなど)から
樹木を守るために雪吊りを行う

約800個所の作業、約4,000kgのわら縄を使用



3月に雪吊り解除後、不要なわら縄は、刻んで「たい肥(肥料)」として再利用

自分たち住んでいる街ですずっと残していきたいものは何ですか？
そのために何ができるか、何をしたらよいか考えてみましょう。



15 陸の豊かさも
守ろう



8. 伝統的建造物群保存地区

伝統的建造物やこれに密接に関係のある樹木、庭園、水路、石垣などを含む歴史的なまとまりをもつ地区を「伝統的建造物保存地区」として指定し、保存をはかっています。
現在金沢には4つの保存地区があります。



- ①東山茶屋街 :江戸時代後期から明治初期にかけての茶屋建築がまとまって残されており日本の華麗な茶屋文化を今に伝える貴重な町並み
- ②主計町茶屋街 :河畔に成立した茶屋町の特徴を今に伝える、国内でも数少ない貴重な町並み
- ③卯辰山麓 :卯辰山麓を巡る曲折した街路に沿って寺社が建ち、町家と渾然一体となったまちなみは全国的にも類例がなく大変貴重
- ④寺町台 :52の寺院が建ち、17世紀末からの地割をよく残し、まとまりのある街並みを残している

古い伝統をもつ街並みを保存し、土産物店やレストラン、カフェなどに活用することで、持続可能な観光地を生み出しているだけでなく、地元の人々の雇用を生み出し、ひいてはその地域を愛する地元愛にもつながっています。

自分たち住んでいる街または周辺で「伝統的建造物保存地区」に指定されている箇所があるか確認してみましょう。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



9. 伝統工芸



江戸時代

加賀藩前田家は
江戸徳川幕府に次ぐ
巨大勢力



江戸幕府の警戒
を解くために
文化振興に力を
入れる



- ・京都や江戸から名工を招き、後継者を育成
- ・全国から工芸品を収集し、サンプル集をつくる



国指定
伝統工芸品
(6種)

加賀友禅



九谷焼



金沢箔



金沢仏壇



金沢漆器



金沢縫



高度経済成長以来、大量生産・大量消費、使い捨てが当たり前の世の中に



エネルギーには限りがあり枯渇しつつある、またごみを埋め立てにより生態系が崩れ、大量の二酸化炭素を排出することで環境破壊も進んでいる



「持続可能性」や「ものを大切にすること」に重きをおくようになってきている

大量生産ではなく、手作業で一つ一つ丁寧に選ばれた資源から作り上げられる伝統工芸品は、品質が高く、長く使い続けることができます

12 つくる責任
つかう責任



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



10. 伝統芸能

約700年前に生まれた「能」「狂言」は、武士のたしなみとされていました。金沢では、大名や武士だけでなく、町民にも奨励されて、現代にも受け継がれています。



能	狂言
能面をつけて舞う 「観世流」「金春(こんぱる)流」などの流派がありますが、加賀藩では5代将軍徳川綱吉が好んでいた「宝生流」を奨励・保護し、「加賀宝生(かがほうしょう)」として現代まで継承されています。	面は通常つけず、セリフが中心 庶民の日常生活を明るく描いたセリフが中心のコメディ

将来の担い手を育成＝「加賀宝生こども塾」

対象： 小学校3年～中学1年生

期間： 2年間

授業料： 無料

教科： ①謡(うたい)・仕舞(しまい) ②狂言 ③加賀宝生 をその道のプロから学ぶ



裾のを拡大することにより伝統文化を次世代に引き継ぎます

9

産業と技術革新の
基盤をつくろう



11

住み続けられる
まちづくりを



11. 多種多様な文化施設

世界的にも有名な21世紀美術館をはじめ、個人の小さな美術館・博物館まで多種多様な文化施設が市中心部の至る所にあり、ほんものに触れやすい環境が整っています。

現代・モダン

- ・金沢21世紀美術館
(ルーブル美術館別館など世界を舞台に活躍するSANAAが設計)
- ・KAMU KANAZAWA
(21世紀美術館の「スイミングプール」のレアンドルの作品など今活躍するアーティストの作品群)
- ・谷口吉郎・吉生記念金沢建築館
(東京国立博物館東洋館、迎賓館赤坂離宮を設計した金沢出身の谷口親子ゆかりの地)
- ・鈴木大拙館(谷口吉生設計)
- ・柳宗理デザインミュージアム

伝統・歴史

- 【茶道】中村記念美術館
- 【能楽】金沢能楽美術館
- 【金箔】金沢市立安江金箔工芸館
- 【大樋焼】大樋美術館
- 【芸妓】お茶屋美術館
- 志摩(重要文化財)
- 懐華楼
- 【武家】旧加賀藩士高田家跡
- 武家屋敷跡野村家
- 金沢市足輕資料館



4 質の高い教育を
みんなに



12. 歴史的建築物

戦災や大きな災害に見舞われなかった金沢では、さまざまな時代の建築物が残っており、「保全」を図るとともに「活用」することで、次世代に文化遺産を継承します。

江戸

- ・金沢城石川門 天明8年(1788年)

明治

- ・石川四高記念文化交流館 ←明治26年旧制高等学校
- ・金沢くらしの博物館 ←明治32年 元中学校
- ・尾張町町民文化館 ← 明治40年 元銀行
- ・国立工芸館 ←明治43年 旧近衛師団司令部庁舎
- ・石川県歴史博物館 ←明治42年～大正 旧陸軍兵器庫

大正

- ・石川県政記念しいのき記念館 ←大正13年旧石川県庁舎本館
現在建物の半分を残し、もう半分はモダンなガラスの造り

◆歴史的文化資産であり、次世代に継承していく重要性を市民に啓蒙

◆保全・活用に必要な「伝統工法」に関わる職人技の継承や専門知識を有する人材育成



表(レンガ)大正



裏(ガラス)平成



9

産業と技術革新の
基盤をつくろう



4

質の高い教育を
みんなに



13. 景観

金沢旅行した人へのアンケートで満足度の高いものに、「史跡・名勝等」「街並み」があげられます。金沢市では、受け継がれた文化的景観を次世代に継承していきます。



日本の自治体としては全国で初めて「景観保存の条例」を制定



きれいな街並みが残る街として、観光客にも人気の都市に

建物の高さ

地区により建物の高さを制限

看板の色

看板の色の明るさなどを規制

無電柱化



整備前



整備後

- ①良好な景観の創出： 歴史的な街並みを強調したり、観光地や商店街の特徴的な景観をつくりだします
- ②安全・安心な道づくり：電柱がなくなることで歩道が広く使え歩きやすく！
- ③災害時の被害軽減： 電柱の倒壊や電線の垂れ下がりといった危険を減らす

自分たちの住む町で、好きな景観はどこですか？その理由は？ またもう少し●●だったらいいのに、と思う場所や景色はどこですか？ 実現するためにどうしたらいいと思いますか？

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



14. セリ

石川県沖は暖流と寒流が能登半島にぶつかり、たくさんの魚が回遊する恵まれた漁場。また金沢は雨量が多く、山からの栄養分を含んだ川が多く流れ込み、魚の餌となるプランクトンが豊富なため、美味しい魚で全国的に知られています。



以前 深夜セリ（朝3:30～） セリに間に合わなかった魚は、1日保存し翌日のセリ →市場へ



保存するためのエネルギーを使う
とれたての新鮮な魚を地元に流通させたい！

現在 朝セリ（朝8:30～）

- ◆セリの開始時間を8:30にすることで、朝とれたての魚がその日のうちに地元に
- ◆規格外や少量の魚も受け入れ、流通にのせることで、魚の命の無駄を減少
- ◆新鮮な魚を近江町市場や食堂、レストランに届けることで地元の食文化を支え、観光産業の下支えをしている
- ◆定置網漁（網を構えて、魚が入ってくるのを待つ手法）を基本とすることで、魚の過剰漁獲を抑え、限りある資源に配慮 => つかう責任

セリってなあに？ →公開の場(市場)で、多くの買い手(市内の魚屋さんやレストランの料理人など)に競争で値段をつけさせて、最高額をつけた人が買える取引のこと

12 つくる責任
つかう責任



14 海の豊かさを
守ろう



15. 金沢城復元

伝統建築の復元。その復元された建物を利用し、金沢の文化や歴史を発信していきます。また歴史に忠実な復元をすることで、技術を継承していきます。

江戸：金沢城
明治：軍隊の用地となる
昭和：金沢大学の敷地となる
平成：県が国から金沢城の敷地を取得し、
金沢城公園として整備

◆史実に忠実な本物志向で建造物を復元
木材利用(釘なども木製)



伝統技術の継承

- ・2010年 いもり堀、河北門完成
- ・2015年 ①橋爪門、②玉泉院丸庭園完成
- ・2020年 ③鼠多門完成
- ・2022年 二の丸復元に着工

②玉泉院丸庭園



③鼠多門



①橋爪門



11 住み続けられる
まちづくりを



4 質の高い教育を
みんなに



16. 技の伝承・職人の育成 🌈

伝統的建造物の保存および復元には、技術の継承が不可欠です。

◆機械化が進む中で、技法の衰退、後継者不足が深刻な問題



◆伝統的かつ高度な職人の技の伝承と人材の育成が必要



◆金沢職人大学校の開設

- ・ 期間: 3年間
- ・ 授業料: 無料
- ・ 科目: ①石工 ②瓦 ③左官(壁をぬる) ④造園 ⑤大工
⑥畳 ⑦建具 ⑧板金 ⑨表具



- ◆「歴史的建造物修復士」として、市内の文化財の修復を実際に行う
- ◆ 武家屋敷跡の土塀を守るために、薦(こも)かけを行う(造園科)
など昔から受け継がれている技法で歴史的景観の保護を行う



長町研修塾茶室「匠心亭」
大学校の方が実際に手掛けた
庭と茶室



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



4 質の高い教育を
みんなに

